

は様々の悪条件が重なった。

7. 腎結腸瘻の1例

香村衛一, 村上信乃, 藤田道夫
(旭中央)

43歳女性, 昭和51年6月15日左腎結石, 左無機能腎で当科入院, 同年6月24日左腎摘出術試るも摘出困難と判断し閉腹した。その後, 左腰背部に瘻孔を形成, 外来通院していたが, 昭和54年10月16日再入院し, 瘻孔造影にて左腎結腸瘻が明らかとなったので, 同年10月24日, 瘻孔と共に結腸の一部と左腎と左副腎を含め一塊として摘出した。術後8日目腹膜炎をおこし再開腹したが, 昭和54年11月6日敗血症で死亡した。

8. 最近の当院における性器尿路外傷について

外間孝雄, 山城 豊 (国立習志野)

昭和51年1月より昭和54年4月までの外来患者総数は7,680名であり, そのうち泌尿性器外傷の患者数は42名で約0.005%と非常に低率である。その内容は性器外傷については①陰茎外傷17例, ②陰のう(辜丸, 副辜丸)外傷2例, 尿路外傷については①尿道外傷5例, ②膀胱外傷0例, ③腎盂尿管外傷1例, ④腎外傷17例計42例である。これら各々について1つ1つ症例を示しその治療方法, 予後等について説明を加える。

9. 前立腺癌の酸性フォスファターゼ

丸岡正幸, 内藤 仁, 野積邦義
真田寿彦, 伊藤晴夫, 島崎 淳
(千大)

今関恵子, 有水 昇 (同・放射線科)
村上信乃 (旭中央)
片海七郎 (君津中央)
石川堯夫 (国立千葉)
真鍋 博 (成田日赤)

前立腺癌 33例, 前立腺肥大症 12例に対して 1. 従

来の酵素法による酸性フォスファターゼと前立腺性酸性フォスファターゼ定量。2. 免疫電気向流法 (Counter immunoelectrophoresis) による前立腺性酸性フォスファターゼの測定。3. Radioimmunoassay による前立腺性酸性フォスファターゼの測定。を行ない各々を比較検討した。その結果 2, 3, の方法は前立腺癌 stage B, C でも異常値を示し1より鋭敏な方法と思われる。

10. 小児尿路感染症

岩間汪美, 安田耕作, 井坂茂夫
村山直人, 島崎 淳 (千大)
片山 喬 (富山医薬大)

昭和50年より54年の5年間に千葉大学泌尿器科を受診した小児尿路感染症の統計を示した。小児患者に占める尿路感染症の割合は11.3%~16.2%であり, 単純性尿路感染症と複雑性尿路感染症の比は1:1である。原因菌は主に大腸菌などのグラム陰性桿菌である。主要経口抗生剤に対する感受性の年度別推移は認められない。複雑性尿路感染症のうち特に問題となる膀胱尿管逆流現象 (V.U.R.) については治療成績を示した。また小児尿路感染症の診断基準, 問題点について言及した。

[特別講演]

辜丸腫瘍について

長尾孝一 (千大・病理)

辜丸は mesodermal origin の臓器で, その発生段階において, Wolffian duct から分化した組織と mesenchymal elements から主として出来て来る。しかし, その周囲には Müllerian duct が介在することから, 多岐に亘たるそれらの起源と考えられる腫瘍の発生がみとめられる。一般に辜丸腫瘍は germ cell, sex cord/stromal cell, 及びその附属器から発生する種々の腫瘍がある。その組織発生, 組織形態の特徴, ホルモン産生との関係について述べた。